

「志高く生きる商業人の育成を目指して」

元田暁輝

専修大学玉名高等学校 教諭

1. はじめに

本校の情報メディア科（旧情報処理科）は昭和61年開設以来、商業教育をベースに高度情報社会に対応する人材育成をかけた情報教育に取り組んできた。その間、インターネットの普及など情報教育を取り巻く環境は革命的ともいえる変化を現場にもたらしてきた。当然、経済産業界もネットワークに依存する割合が日ごとに増しているようである。生徒たちもブログ・プロフを持ち、SNSに参加することも日常的になっている。

このような環境の中で、生徒たちの日常は情報にあふれ、他者とコミュニケーションする機会は増えているものの、本当の意味でのコミュニケーション能力やメタ認知能力は著しく減退してきている。また、志高く生きるという生き方そのものを見失っているようにも感じている。

アントレプレナーシップ開発センターのプログラムに参加することで、大きな夢を持ち、自分の人生のビジョンを描き、志高く、誠実に生きることを学ばせたいと考えている。

2. 取り組みの概要

授業では会社を創立するための事務手続や職業訓練的なことに終始するのではなく、自己の能力を最大限に発揮することで、よりよい社会の実現を目指すという視点から人物モデルを与え、その人物の生き方、考え方、危機対応力などを研究させている。今年度は、稲盛和夫氏（京セラ名誉会長）、渡邊美樹氏（ワタミ株式会社社長）を取り上げた。また、より生徒の体験に現実感を持たせるために、ネット上の取引だけでなく、商店街のイベントホールにおいて「高校生デパート」を出店した。そこで、生徒自らが企画・仕入れ、販売、決算を行った。

この活動の中で特に大切にしているのが、コミュニケーション能力の育成である。現実の社会は「個」ではなくあくまでも「集団」によって成立している。特に会社という組織は「利潤の追求」と「社会貢献」という大きな目標のもと、「公の人間関係」を築くことで成立している集団であるので、クラス内の私的な人間関係を公的な人間関係にするための組織作りを行った。クラスのメンバーを小グループに分け、社長、経理部長、営業部長などを任命した。その中できちんとしたコミュニケーションを図り、社員のベクトルあわせをして課題に取り組むことを第一義としている。各生徒には「社長や先生の指示を受けて仕事をするのではなく、自ら創意・工夫して『このようなことをしたいのですが、いいですか』というように自ら仕事を探し、提案しなさい」さらに「自分の仕事さえよければいい、自分の部署だけであればいいという発想ではなく、常に全体を見渡して行動しなさい」と指導している。また、グループ内のトラブルや問題事案が発生したときは、自分が研究した人物モデルであればどのように対処するかを常にシミュレートさせるようにしている。

3. まとめ

企業の不祥事の報道が絶えることがない。「自分さえよければよい」「利益さえあげればよい」といった浅ましい姿を目にするたび創業の志はどこへ行ってしまったのだろうかと思う。

「志高く」とは、自分のミッションを自覚し、その活動をとおして社会に貢献することである。その原点を生徒達に強く指導していきたい。バーチャルカンパニーを興して、力をあわせて会社を運営していく中で、コミュニケーション力やメタ認知力を高め、より高い倫理感、道徳感、使命感を意識し、志高く生きる人材を育成していきたい。